

第1 地価公示結果における本県地価のポイント

1 令和6年1月1日における本県の地価は、住宅地、商業地、工業地のいずれも3年連続で上昇し、その上昇率は拡大した。

- (1) 平均変動率をみると、住宅地では2.8%（昨年2.3%）、商業地では4.2%（昨年3.4%）、工業地では4.1%（昨年3.3%）上昇した。
- (2) 上昇、横ばい、下落地点数の割合をみると、住宅地では、上昇地点が83.0%（昨年79.9%）、横ばい地点が9.0%（昨年9.8%）、下落地点が8.0%（昨年10.3%）となった。
また、商業地では、上昇地点が90.5%（昨年86.3%）、横ばい地点が6.0%（昨年7.4%）、下落地点が3.5%（昨年6.3%）となった。

2 地域別の地価は、住宅地では、名古屋市、尾張地域、知多地域、西三河地域は上昇率が拡大し、東三河地域は下落から横ばいとなった。また、商業地では、全地域で上昇率が拡大した。

- (1) 地域別の平均変動率をみると、住宅地では、名古屋市で4.5%（昨年3.7%）、尾張地域で2.1%（昨年1.5%）、知多地域で2.3%（昨年1.9%）、西三河地域で3.2%（昨年3.0%）上昇し、東三河地域で0%（昨年△0.1%）と横ばいを示した。
また、商業地では、名古屋市で6.0%（昨年5.0%）、尾張地域で2.7%（昨年1.6%）、知多地域で1.7%（昨年1.0%）、西三河地域で4.1%（昨年3.2%）、東三河地域で1.2%（昨年0.8%）上昇した。
- (2) 市町村別の平均変動率をみると、住宅地では、大府市など44市町（昨年39市町）で上昇したが、南知多町など6市町村（昨年10市町村）で下落した。
また、商業地では、知立市など38市町（昨年33市町）で上昇したが、南知多町など6市町（昨年9市町）で下落した。
- (3) 名古屋市各区の平均変動率をみると、住宅地、商業地ともに全ての区で上昇した。

3 最も大きい上昇率を示した地点は、住宅地では、「名古屋中-3（上前津2丁目）」（16.2%）、商業地では、「名古屋東5-11（泉1丁目）」（15.0%）であった。
一方、最も大きい下落率を示した地点は、住宅地では、「南知多-8（山海）」（△7.8%）、商業地では、「南知多5-1（大井）」（△5.6%）であった。

- (1) 住宅地では、変動率上位5位までの地点は名古屋市中区、東区、熱田区、千種区の地点となった。
また、商業地では、変動率上位5位までの地点は名古屋市東区、千種区、中区及び一宮市の地点となった。
- (2) 住宅地では、変動率下位5位までの地点は南知多町の地点となった。
また、商業地では、変動率下位5位までの地点は南知多町、西尾市及び美浜町の地点となった。